

# ゼロから始める浪江町の営農再開

～集落営農と外部法人が調和する新しい産地づくり～

相双農林事務所双葉農業普及所

## 背景・ねらい

- ・原子力災害によって営農面積が**ゼロ**に
- ・避難指示解除後、**帰還したのは僅かな農家だけ**  
⇒限られた担い手で、多くの農地を管理しなければならない
- ・**被災地特有の営農課題**が山積み



「営農したいけど放射性物質のリスクが心配...」  
「除染の影響で地力が低下し、収量が低い...」  
「みんな避難していて地域の話し合いや活動ができない...」



H28時点の町内農地

- ①「集落営農」と「外部法人」を担い手として位置づけ確保
- ②被災地特有の営農課題解決で担い手を支援し営農再開面積を拡大

⇒ **ゼロになった浪江の農業を再生し、新しい産地をみんなで作る!**



## 活動内容

### 【I チームづくり】

◎担い手確保・営農再開面積拡大のためのチームを結成  
⇒ **関係機関が連携し、それぞれの分野で担い手をサポート!**

**試験研究機関**  
・被災地課題の試験

**JA**  
・出荷  
・資材販売  
・CE等運営



**担い手**

**普及所**  
・関係機関の調整  
・技術支援

**浪江町役場**  
・地域の合意形成支援  
・補助事業

**官民合同チーム**  
・外部法人の誘致

### 【II ビジョン作成】

- ・各集落で座談会を開催し、課題と解決方針を整理  
⇒「**地域ビジョン**」として作成し**見える化**  
⇒その過程で**担い手をどのように確保するか検討**

◎集落営農だけでは担い手が不足...  
⇒ **外部から法人に参入してもらう!**

集落営農 外部法人



### 【III 集落営農の確保】

#### Step1 営農希望者の掘起こし



- ・農地を保全管理している**復興組合を対象に意向調査**  
⇒集落毎に希望者をリスト化し組織的営農に誘導

#### Step2 営農方法の検討



- ・試験結果からリスクの低い品目、栽培方法を検討  
⇒**水稲や小麦、タマネギを提案**  
⇒**吸収抑制対策**を徹底指導

#### Step3 営農指導



- ・新規品目は**重点指導**  
⇒**安心して継続できるよう支援**  
・除染後農地は**低地力・雑草多**  
⇒**施肥指導**や**雑草対策**を徹底

## 【IV 外部法人の確保】

### Step1 外部法人の誘致



- ・ イベントや人脈で全国各地の農業法人にPR、誘致
- ・ **参入希望法人の審査**
- ⇒「合格」なら地域に紹介
- ⇒水稲や長ネギ、りんごで参入

### Step2 営農エリアの調整



- ・ **地域計画策定座談会**を活用
- ⇒外部法人がいつ、どの農地で営農するか**集落営農を交えて合意形成**
- ⇒農地の集積や交換を積極的に提案し効率化を図る

### Step3 地権者とのマッチング



- ・ **地権者向け説明会**を開催
- ⇒地域に参入する法人の品目や従業員、営農計画等を紹介
- ⇒合意後、法人と地権者の管理耕作契約締結を支援
- ⇒**農地バンク契約**に誘導し、定着と経営安定化を支援

## 【V 集落営農と外部法人の共生サポート】

### ○地域組織の設立・支援



- ・ 両者を交えた**農用地利用改善団体**や**圃場整備推進委員会**を設立し、**一体的な活動**を支援

### ○交流機会の創出



- ・ **勉強会**や**意見交換会**を開催
- ⇒技術指導や課題抽出と併せて**両者の関係性を強化**

### ○トラブルの解決

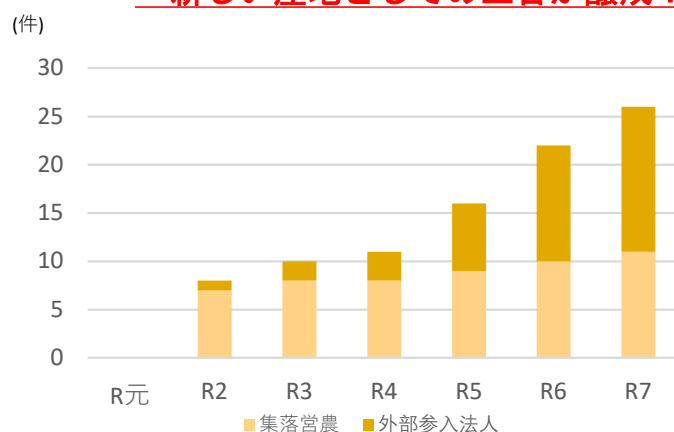
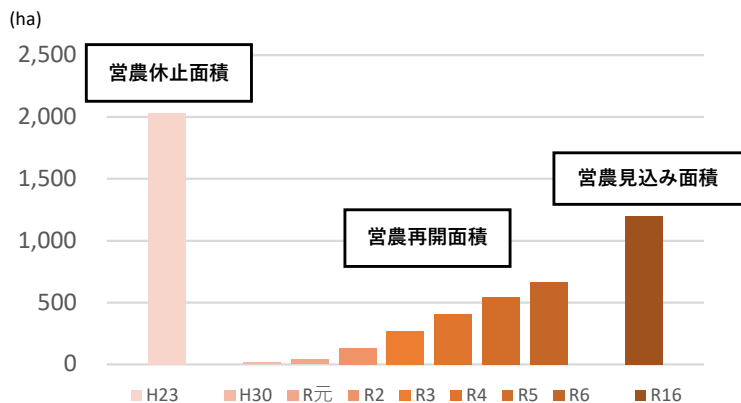


- ・ 用水の使い方や農道管理等で**トラブル**が発生
- ⇒両者の意見を聞き、**互いが納得できる解決方法を提案**

## 活動成果

- ・ **営農再開面積は着実に増加**しており、**更なる拡大の意欲も高い**
- ・ 集落営農と外部法人も増加し、**担い手の不足感が払拭**
- ・ 担い手間の調和も進み、**地域活動が再生**しつつある

⇒**新しい産地としての土台が醸成!**



## 今後の活動・方向性

- ・ 集落営農の高齢化
- ・ 経営の補助金依存が強い
- ・ 依然として地力が低い



- ・ 離農者の農地を次の担い手に**継承・集約**
- ・ いわゆる「通常営農」に向けて**営農指導**
- ・ **復興牧場**を軸とした**耕畜連携**で地力改善